




CASE
01
食品・加工系

新たに導入した直圧式大型搾油機。原料となる亜麻種子に上下から圧力をかけてプレスすることで亜麻仁油を搾り出す。薬品や添加物を使わずに、「油を搾る」ことにこだわっている

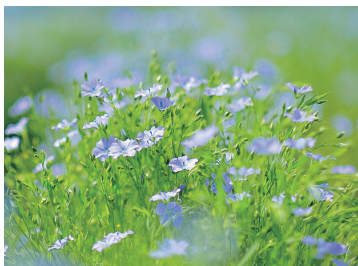
有限会社 亜麻公社 | 事業計画名：
北海道産亜麻仁油の品質・搾油率向上
および搾り粕の有効活用事業



亜麻種子の乾燥機と搾油機、搾り粕の粉碎機を新たに導入し、 亜麻種子の適期収穫と搾油率向上、副産物の有効活用を実現

亜麻

冷涼な気候を好む亜麻は、衣料品や布袋などに使われている麻素材の原料。昭和40年代まで道内各地で盛んに栽培されていたが、戦後、化学繊維の普及でその生産や消費は一気に衰退をたどった。



北の大地に亜麻の花咲く美しい風景が再び広がりはじめている。亜麻は6月下旬から7月の初めにかけて薄紫色の花を咲かせ、9月には成熟した種子になる

かつて北海道で広く栽培された亜麻(※)。花の美しさと、繊維・種の有用性からあらためて注目を集めている。国策で栽培が奨励されながらも化学繊維に取って代われ、栽培が途絶えてしまった亜麻の文化をもう一度、北海道の活性化に役立てることはできないか。そんな思いから国内唯一の亜麻加工業者として2004年に設立された同社は、40年近い亜麻の空白時期を超えて、石狩管内当別町で亜麻栽培を復活させ、農商工連携による時代にふさわしい亜麻商品の開発・販売を進めてきた。現在同社が販売しているのは、新鮮な風味と黄金色が鮮やかな無精製の亜麻仁油のほか、サプリメント、ドレッシング、石けん、画用液など全10種。どの商品も質の高さと味や素材への強いこだわりが、長期にわたって全国の顧客の心をつかんでいる。また、町の亜麻畑の景色や亜麻に関連する文化を楽しむ「亜麻まつり」は、同社が中心となり2008年から続けてきたイベントで、亜麻文化の啓蒙・振興と地域活性化につながる原動力としての役割も果たしている。本事業では、亜麻種子の乾燥機と搾油機、搾り粕の粉碎機を新たに導入し、亜麻種子の適期収穫の徹底と亜麻仁油の搾油率向上、搾油機から生じる搾り粕を有効活用する設備体制の構築を目指した。

事業の背景

原料亜麻種子の適期収穫と搾油率の向上が課題

亜麻は9月に成熟した種子に育ち、収穫期を迎える。現在、当別町の3戸の農家で当別町亜麻生産組合を発足させ、亜麻の生産面積は5ヘクタールまで拡大しているが、収穫時期が重複したり、収穫量が多かったりした場合、既存の乾燥機では一度に処理できないケースがあった。結果、一部の亜麻種子は収穫適期を逃してしまい、品質の劣化につながり、搾油率低下の要

因ともなっていた。また、既存の連続式搾油機の搾油率は約10~15%で、搾油率の向上と速やかなる過処理への進行が課題であった。また、将来的に搾油機を搾油率の高い直圧式に切り替えた場合、副産物として生じる搾り粕を使った新商品を開発できないかと模索していた。

実施内容

課題解決を図るため、3台の機械装置・設備を導入

本事業を活用して、新たに3台の機械装置・設備を導入した。具体的には、亜麻種子の乾燥機を1台増設した。また、搾油機を従来機である連続式(スクリューして種を搾る方式)と、直圧式(種から直接搾る方式)大型搾油機を併用。同時に、直圧式の搾油機から生じる亜麻種子の副産物・搾り粕の有効活用を見据え、乾燥した搾り粕を小片化、製粉化する粉碎機を導入した。



粉碎刃の回転数を調節することで、粗粉碎から粉末化まで可能な粉碎機。乾燥した搾り粕を原料に、「食」に関する新商品の開発を目指し、素材の投入量や加工時間、粒度の選定など今も試行錯誤を続けている

事業成果

適期収穫が徹底され、品質低下を抑制し、亜麻仁油の搾油率が向上

乾燥機の増設後は、全農家で適期収穫と速やかな乾燥作業が徹底できるようになり、収穫・乾燥作業の効率化と、原料となる亜麻種子のさらなる品質向上につながる取り組みとなった。また、従来搾油機から直圧式大型搾油機に切り替えたことにより、搾油率が約5%向上した。搾油後のろ過工程へも短時間に

移行できるようになり、生産性向上に大きく寄与した。直圧式搾油機から生じる亜麻種子の搾り粕は、乾燥後、新たに導入した粉碎機を用いて新商品の開発が進められており、消費者目線や斬新さをより意識した製品を生み出そうと注力している。

VISION

途切れた北海道・亜麻栽培の歴史を今に繋げる
地域と時代の要請に応える亜麻産業の構築を目指す

代表取締役
橋本 俊彦 氏

亜麻公社が誕生して、すでに20年以上が経ちます。北海道の一次産品をそのまま出荷するのではなく、付加価値をつけて北海道

経済に貢献しようと、試行錯誤した末の亜麻栽培のスタートでした。持続可能な新しい事業を興すなら北海道の資源を活かして雇用の場を作ろう、北海道の主要な一次産業である農業の産品に付加価値をつけ、本州に、将来は海外に売り込もうと考えたのです。除草剤などを使わずに、質の高い亜麻を栽培してくれる生産者の努力に支えられ、一歩ずつ着実に前に進み、これまで多くの亜麻製品を世に送り出してきました。おかげさまで応援してくれる人も増え、年々反響も大きくなってきています。今後は、加工技術やブランドのノウハウを持っている人や企業とつながることで、亜麻の世界をさらに広げ、発信力・創造力を高め、より一層の地域活性化、北海道活性化に力を尽くしていきたいです。



COMPANY DATA

有限会社 亜麻公社

TEL.0133-25-3730

FAX.0133-25-3731

<http://www.amakousya.co.jp/>

●所在地: 〒061-3772

石狩郡当別町獅子内2113-8

●代表者名: 代表取締役 橋本 俊彦

●資本金: 1,200万円

●従業員数: 3名 (2022年12月現在)

●設立: 平成16年 (2004年) 2月10日

●事業内容: 亜麻を利用した商品の企画・開発・製造・販売、亜麻を軸とした地域づくりの提案



北海道産・農薬不使用の亜麻種子だけを原料に、熱を加えない低温圧搾(コールドプレス)で搾り、ろ過した亜麻仁油。製造後も鮮度と品質を維持できるよう冷蔵での品質管理と輸送法も徹底し、「搾りたて」の油が消費者の元に届く仕組みを確立している